540 悪性黒色腫における^{123}I-IMPシンチグラフィ

中別府良昭，中條政敬，岩下慎二，田之上供明，島岡俊治，篠原慎治（鹿大 放）

^{123}I-IMPは，脳血流イメージ剤として脳血管障害やてんかんなどの神経疾患に広く使用されているが，近年，悪性黒色腫の原発巣及び転移巣の検索にも用いられるようになってきている．我々も，悪性黒色腫患者8人に対して，^{123}I-IMPシンチを施行した．評価は^{123}I-IMP 111 MBq（3mCI）静注後4時間後像で行った．シンチ施行時病変の認められた4症例7病変中4病変にＲＩの集積が認められ，その最小は径１５×１５mmの皮膚病変であった．一方，術後で臨床的に明らかな病変の認められない4症例には異常集積は認められなかった．悪性黒色腫における^{123}I-IMPシンチの有用性が示唆されたが，今後さらに症例を重ねる必要があると考えられた．

541 原発性肺癌における^{67}Gaシンチの有用性

角美奈子，原 正史，下村 修，冨口静二，広田嘉久，高橋睦正（熊本大学放射線科） 高木善和（NTT九州病院放射線科）

原発性肺癌の治療前画像診断として施行頻度の高い^{67}Gaシンチに関し、その有用性について多変量解析（数量化Ⅱ類）を用いて検討を加えたので報告する。

対象は、原発性肺癌と診断された312例（手術例132例）であり、^{67}Gaシンチ陽性率は83.3%であった。^{67}Ga集積に関しては、原発巣の最大径や組織型、stage等が寄与していた。

治癒切除の可否の決定に関しては、転移の有無、年令、組織型、CT上のT,N因子の寄与が大きく、^{67}Ga集積の有無の治療方針決定への寄与率は、これらに劣っていた。

542 大腸癌に対する^{67}Gaシンチグラフィの有用性の再評価（続報）——切除標本スキャンの検討——

住 幸治，尾崎 裕，雨宮 謙，白形彰宏，
玉本文彦（順大浦安病院放射線科）
片山 仁（順大放射線科）

我々は，従来評価の低かった大腸癌に対する^{67}Gaシンチグラフィの有用性を再評価し，大腸癌の約70%に陽性所見を認め，陽性率は腫瘍の大きさ，深達度にしたがって高くなることを報告してきた。また，切除標本自体のスキャンでは，全例に集積を認めた。今回は，切除標本において腫瘍部と正常部への集積程度を比較し，腫瘍径，深達度および組織型との関連を検討した。

543 頭頸部悪性腫瘍の Follow up Ga シンチグラフィーの有用性

吉田祥二，山本洋一，西本 均，前田知穂（高知医大放射線科）
赤木直樹，久保嘉彦（同 放射線部） 岸本誠司，齋藤春雄（同 耳鼻咽喉科）

頭頸部領域の悪性腫瘍の Ga シンチグラフィーの陽性率は治験例215例で平均61%とそれほど高いものではないが、治療経過中に数回にわたって Ga シンチグラフィーを施行した78例について、その腫瘍の局所治療効果並びに予後の判定における有用性について検討した。

治療経過中の Ga シンチグラフィー所見が原発巣又は遠隔部位で予後判定に有用な変化を示した症例をFollow up シンチグラフィー有用例として検討すると、初診時 Ga 陽性率の低い喉頭癌、舌癌、口腔癌、下咽頭癌においても、 follow up Ga シンチグラフィーの有用性がみられた。

544 放射線治療患者における^{67}Gaシンチの有用性

須藤久男，楮本智子，秋元哲夫，仲本宗健，鈴木晴夫（松戸市立放射線科），山崎統四郎（放医研臨床研究部）

^{67}Gaシンチは腫瘍および炎症シンチとして一般に施行されているが，実際にどの程度臨床の場で役立っているのか不明な点がある。今回我々は1987年1月から1988年12月までの2年間に，放射線治療を施行した367例中，^{67}Gaシンチを施行した157例（42.8%）を対象に^{67}Gaシンチの有用性について検討した。疾患別内訳は，肺癌43/55（78.2%），食道癌19/34（55.9%），膀胱癌16/17（94.1%），悪性リンパ腫13/15（86.7%），乳癌9/89（10.1%），直腸癌6/21（28.6%），脳腫瘍5/21（23.8%），その他46/115（40.0%）であった。各疾患の検査目的，結果が治療にどのような影響を及ぼしたか，また，^{67}Gaシンチが2回以上施行された55例について経過観察における有用性について検討したので報告する。

545 放射線治療計画におけるGa-67 scintigraphyの意義と限界

東 光太郎，高瀬 秀子，関 宏恭，大口 学，
興村 哲郎，宮村 利雄，山本 達
（金沢医科大学放射線科）

われわれは，放射線治療患者のうち放射線治療計画前にＸ線撮影，ＣＴスキャンおよびGa-67 scintigraphyを施行した症例を対象として，放射線治療計画におけるGa-67 scintigraphyの意義と限界について検討した。その結果，Ga-67 scintigraphyはＸ－ＰあるいはＣＴスキャンからは得られない特異な情報を与えてくれる場合があり，最適の放射線治療計画をたてるための重要な付加すべき検査であることがわかった。

Presented by Medical*Online